

# 戦争する国づくり NO

## 改憲許さず月例国会前行動



主催者あいさつする菱山さん

4月19日、国会議員会館前で月例の総がかり行動が行なわれ、900人(東京土建は50人)が参加しました。

主催者を代表して菱山南帆子さんは「連日報道されるウクライナの情勢から、戦争の残酷性をあらためて知らされる。一方、日本ではこれに乗じて敵基地攻撃能力とか、改憲を発言する政治家がいる。彼らがもし戦争になった場合は最前線に立つことはないだろう。命を軽んじる、戦争する国づくりに徹底して反対の声を上げ続けよう。戦争廃絶



大石議員(左)に署名を手渡す中村委員長

北川誠太郎統一本部事務局長が報告。訴訟の到達点を解説した上で、「全面救済には最高裁判決の弱点(違法期間

約6万筆を手渡す

大石晃子(れいわ)、篠原豪、森山浩行、近藤昭一(以上、立民)、宮本徹、田村貴

# アスベスト

## 建材企業は基金に参加を 国会議員に署名提出

4月13日、国会議員会館で「アスベスト建材企業が参加する補償基金制度創設を求め

「アスベスト建材企業が参加する補償基金制度創設を求め」を首都圏建設アスベスト訴訟統一本部と建設アスベスト訴訟全国



東京地評を代表して発言する中村さん

の短さ、屋外作業者の除外、建材企業の一部に責任を限定したこと)を克服し、給付金の改正が必要。また建材企業の真剣な謝罪と補償基金への拠出を迫る。そのため新しい請願署名に取り組み、お願いの紹介議員になってもらうための行動を集結した。6月7日には、全国一斉で『建材企業訴訟』を提訴する。また5月20日には日比谷野首で大集会も開催し、運動を強化する」などと話した。

昭、武田良介(以上、共産)の国会議員が連帯のあいさつを行ない、他に議員秘書11人が出席しました。出席議員ひとり一人に、6万筆の請願書名を手渡しました。

医療保険の負担は個人の努力では限界が来ている。日本経済のエンジンは大企業などではなく、庶民の懐具合がカギ。賃上げこそ現状打開できる。最賃の1500円引き上げが多くの労働者に好影響を与える。賃上げには労働組合の役割が重要。労組に加入しよう」などと訴えました。

市民からは3人がスピーチ。改憲問題対策法律家6団体連絡会の森孝博弁護士は、国会の憲法審査会は自民、公明に加え、国民民主、維新が加勢して改憲議論の促進が行なわれる危険な状況にあると、話しました。

また、立憲野党からは伊波洋一(沖縄)、福島瑞穂(社民)、井上哲史(共産)、石垣のり子(立民)の議員が連帯のスピーチを行ないました。



錦糸町までデモ行進する東京土建らの隊列

4月16日、亀戸中央公園で「さようなら原発首都圏集会(主催:『さようなら原発』1000万人署名市民の会)」が開催され、2300人(東京土建は191人)が参加しました。

主催者を代表してルポライターの鎌田慧さんは「ウクライナでのロシアのウクライナ攻撃で、核使用の恐怖と原発の危険性が明らかになった。戦争の中で原発が核爆弾と同じような役割を果たしている。原発を停止する、核兵器を廃絶していく、再生エネルギーにシフトしていく運動を強めよう」とあいさつしました。

北の現状について「ウクライナ支援について」などについて、5人の発言があり、閉会にあたり作家の落合恵子さんが発言。「原発のある国に生きることを耐える必要がないということ」を、ウクライナ侵略から私たちは確認した。おかしいものにはおかしいと声を上げ続けよう」と訴えました。集会終了後、参加者は「原発なくせ」ウクライナに平和を」とコールし、錦糸町までデモ行進しました。

# 脱原発、戦争やめろ 2300人で集会、デモ

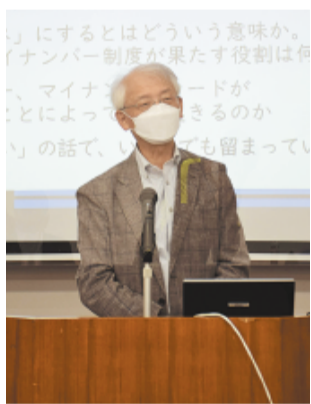
汚染水の海洋放出について「核燃料サイクルの破綻と」

その後、「東電刑事裁判と」



「東電刑事裁判と汚染水の海洋放出について」の発言する福島からの参加者

国家構想と「マイナンバー」と題して講演。黒田氏は、「国民の個人情報」(データ)を「新たな価値創造の源泉」(もうけのタネ)にすることが狙いで、「マイナンバーの情報が漏洩が怖い」というレベルにとどまっていたらダメとし、プロファイリングとは何か、それが引き起こす人権侵害などについて話しました。



講演する黒田さん

黒田充自は「マイナンバー制度発足から7年。政府は便利になるとけん利になるとけん利を伝えているが、コロナ給付金や税金申告などでは不便になる事態が起きている。マイナンバー、デジタル改革(DX)の真のねらいを今日は学びましょう」とあいさつしました。

黒田充自自治体情報政策研究所代表が「デジタル田園都市